

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 1 日現在

機関番号：32670

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24501298

研究課題名(和文) 持続可能な開発を多様なスケールでとらえる地理教材の開発

研究課題名(英文) The Development of Teaching Materials for Geography Which Help People Understand Sustained Development through the Use of a Variety of Scales

研究代表者

田部 俊充 (tabe, toshimitsu)

日本女子大学・人間社会学部・教授

研究者番号：20272875

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究はマルチスケールのESD教育という着眼点で各国のESD教育をとらえなおし、日本におけるマルチスケールでのESD教材の開発を行った。まず、実践事例のスケールに応じた整理と分析ではスケールを通じて共通する問題意識を明確化した。次に、英国や米国の実践事例やカリキュラムを空間的スケールごとにどのような課題が取り上げられているかに注目して分析した。そして、東日本大震災を題材とした授業実践事例の収集では空間スケールに着目した整理を行った。さらに地域スケールの大小が取り上げるべき地域開発上の問題と関連するのかを検討し教材を開発し授業を行った。

研究成果の概要(英文)：This research uses the multiscale that is used in Educational for Sustainable Development (ESD) as a viewpoint for reinterpreting the ESD of each country. Development of ESD teach materials which various scales was done as a part of this research in Japan. First of all, arrangements and analyses were done in accordance with scales that were used for practical examples. Through the use of these scales we made the common issues in the field clear. Next, we analyzed the curricula and practical examples from America and the UK with a focus on what kind of issues were brought up for each spacial scale. Then, we used a collection of practice examples used in the classroom which focused on the Great East Japan Earthquake. Furthermore, we took into consideration the question of are the issues related to area development that communities on a large or small scale should be bringing up. We then developed teaching material based upon this consideration and held a class.

研究分野：地理教育学

キーワード：ESD 地理教育 マルチスケール 社会科教育 東日本大震災 米国 英国 実践事例

1. 研究開始当初の背景

海外では、地理教育の立場で多様な ESD (Education for Sustainable Development = 持続発展教育) に関する教育実践に取り組みられており、ESD が重視する世界の多様性や今後の世界のあり方を考えるには地理教育が大きく貢献することができると考えられている。日本でもこれまでに環境教育や社会科教育で様々な ESD の実践が取り組まれてきたが、地理教育が特徴とする地図などを利用した教育実践が十分には取り組まれているといえない。特に ESD で取り組まれる地域開発や環境問題などは、取り上げる地域のスケールが異なれば存在する問題の内容は異なり、解決策も違ったものになると考えられる。

2. 研究の目的

ESD は環境教育や開発教育、エネルギー問題など、多様な要素から成り立っており、学校教育では、様々な教科で実践が行われている。それらの実践を体系的に収集・分析し、地理教育への活用の可能性を探るとともに、ESD の地理教育上の位置づけを構築する。また、取り上げられた事例のスケールと発現する問題について着目した整理をする。

海外の地理教育で実践されている ESD を収集し、各国の文脈のなかでなぜそれらの事例が取り上げられたのか、取り上げられた事例のスケールはグローバルなのか、国家スケールなのか、ローカルなのかなど、空間的なスケールを整理する。新指導要領と照らし合わせ、日本への適用可能性を検討する。

ESD に関して、イギリスやアメリカ合衆国などの国々では一定の取り組みが見られる。これらの内容を日本の地理教育カリキュラムとすりあわせ、日本への適用方法を検討する。

3. 研究の方法

地理教育における ESD 教育の体系を検討するために、初年度は ESD 先進地の英国で ESD

教育の実践事例を収集するとともに、日本の地理教育のカリキュラムの上で整理した。2 年目は、マルチスケールでの ESD 教育を検討するために、様々な実践事例や教材を整理した。また、マルチスケールに対応した教材を開発するために GIS や地図を活用した ESD の実践のための教材の開発を行った。このとき、日本の初等中等教育における地理教育に沿った形での実践可能性を検討した。最終年度には、マルチスケールでの ESD 実践のモデルカリキュラムとそれぞれの段階でのモデル的な教材を開発し、その教材のいくつかについて実験的な実践を行い、カリキュラム、教材内容を調整した。

4. 研究成果

本研究の目的はマルチスケールの ESD 教育という着眼点で各国の ESD 教育をとらえ直し、日本におけるマルチスケールでの ESD 教材の開発を行うことにあった。各国の ESD 教育をとらえ直すとともに、日本における実験的なマルチスケールでの ESD 教材の開発に着手し、授業実践を実施した。狛江市立 A 小学校、津市立 K 小学校等で「北極海の氷から地球温暖化と ESD について考える」をはじめとする授業を試行的に実施し、分析した。主な領域が環境領域である ESD 実践や世界像形成のためのマルチスケールの地図・地球儀を多様に用いながら、ESD の実践を行うことで環境、経済、社会・文化の ESD の 3 大領域すべてがバランスよく扱われていたとともに、ESD で育てたい力の育成も行われていた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 21 件)

【平成 26 年度】

1. 田部俊充 アメリカ世界地誌 Q & A : 企画趣旨 エスニシティ・フードビジネス・グレートプレーンズ・デモクラシー 新地理 62 巻 2 号 2014 年 21-23 , 査読有

2. 田部俊充 ヨーロッパ世界地誌 Q&A: 企画趣旨 新地理 62 巻 3 号 2014 年 75-77 査読有

3. 志村喬: 国際地理学連合(IGU)の地理教育委員会(CGIE)にみる地理教育研究潮流と日本, 人文地理, 66 巻 2 号, 2014 年 4 月, pp.30-50, 査読有

【平成 25 年度】

4. 田部俊充「フロントライン教育研究 ESD を推進するための世界地理学習と授業を活性化するためのICTの活用」平成 26 年 1 月号 (NO.909) 文部科学省『初等教育資料』pp.64-67, 査読無

5. 田部俊充・加藤美由紀「小大連携による環境教育研究の取り組み - 生物多様性の理解 - 」『日本女子大学人間社会学部紀要』2014 年 3 月, 第 24 号, pp.63-72, 査読無]

6. 永田成文「身近な地域の防災を考える小学校における地理 ESD 授業の開発 - 社会科地理学習と総合学習と外国語活動との連携を通して - 」全国地理教育学会『地理教育研究』No.13, 2013.10, pp.1-8, 査読有

7. 永田成文「日本における ESD 推進の現状と課題」『社会科 navi』vol.6, 日本文教出版, 2014.1, pp.1-4, 査読無

30. 池俊介「世界地誌学習の今後の課題」,新地理 61 - 1, P.42-43, 2013 年 4 月, 査読有

8. 寺本潔,「小学校低学年生活科における子どもの空間認知の形成 指導の仮題と改善の方策」,玉川大学教師教育リサーチセンター年報, 3, 2013, 15-23, 査読有

9. 寺本潔,「観光を題材とした実践的な地理教育,地理」,58-11,2013,93-97,査読無

10. Koji OHNISHI, Hiroshi MITSUHASHI, Geography Education Challenges Regarding Disaster Mitigation in Japan, Review of International Geographical Education Online, 3 巻 3 号, 2013, 230-240. 査読有

11. 池俊介・福元雄二郎 2014 高校地理教育における野外調査の実施状況と課題 - 神奈川県内の高校を対象としたアンケート調査結果から -, 新地理 62 巻 1 号, pp.17-28. 査読有

【平成 24 年度】

12. 池俊介 (2012) 地理教育における地域調査の現状と課題. 査読有. E-journal GEO, 7(1), pp.35-42.

13. 池俊介 (2012) ポルトガルの地理学. 査読有, 地學雑誌, 121(4), pp.664-672.

14. 大西宏治 (2012) 地図を活用した防災教育の有効性. 査読有, 新地理, 60(1), pp.30-36 2012 年

15. 志村喬 (2012):「地理教育特集号」刊行にあたって (編集委員長巻頭言).E-journal GEO(日本地理学会 web 学会誌), 第 7 巻 1 号 (地理教育特集号), pp.1-2. (査

読有)

16. 井田仁康・志村喬 (2012):「災害と子どもたちの教育を考える - 東日本大震災被災学校の現在とこれからの地理学・地理教育 (日本地理学会公開シンポジウム概要報告). 地理, 57(5), pp.30-34. 査読有

17. 田部俊充 (2012): ICT 地理プレミアム授業: 日本にいつ上陸するか(1)写真・映像を使った地理 ICT プレミアム授業. 社会科教育, 査読無, 49(10), pp.122-125.

18. 田部俊充 (2012): ICT 地理プレミアム授業: 日本にいつ上陸するか(2)アメリカ合衆国の最新 ICT 地理プレミアム授業 アメリカ合衆国の取り組みに学ぶ. 社会科教育. 査読無, 49(11), pp.120-123.

19. 田部俊充 (2013): ICT 地理プレミアム授業: 日本にいつ上陸するか(4)高校地理授業実践における日本・ドイツの工夫. 社会科教育. 査読無, 50(1), pp.120-123.

20. Shigefumi NAGATA, Toshimitsu TABE 「New Direction of Education for Sustainable Development in Japan」 Experience-based Geography Learning, IGU-CGE Symposium 2012 Proceedings. 査読有, pp.94- 97.

21. Shigefumi NAGATA・Toshimitsu TABE 「New Direction of Education for Sustainable Development in Japan」 IGU-CGE Symposium 2012, 2012.8.23, University of Education Freiburg, Germany, 査読有

【学会発表】(計 21 件)

【平成 26 年度】

1. 田部俊充, SOCDE(Social Democracy in Asia)国際会議 *Universal Education: Breaking the Class, Gender and Cultural Divides* 2014.4.13.シンガポール Education for the Future, the Future of Education A Conference on Progressive Education Agenda

2. 山根栄次・永田成文・萩原浩司・石田智洋「電気の安定供給の仕組みを考える中学年社会科の授業開発 水道の送水のアナロジーを送電に用いて - 」全国社会科教育学会第 63 回全国研究大会, 自由研究発表, 2014.11.1, 愛媛大学

3. 田部俊充 企画趣旨 日本地理学会第 26 回地理教育公開講座 2014 年 9 月 21 日 (富山大学)

4. 田部俊充 企画趣旨 日本地理学会第 27 回地理教育公開講座 2015 年 3 月 28 日 (日本大学文理学部)

5. 五十嵐徳也・志村喬: 2014 年 8 月 10 日: 社会科開始

時期における地理空間・地図認知能力を高めるための授業開発研究 - 小学校3年「六日町の絵地図をかこう」の実践より - . 日本地理教育学会第64回大会, 2014年8月10日, 横浜国立大学.

【平成25年度】

6. 田部俊充「小大連携による環境教育活動の取り組み」日本地理教育学会, 2013年8月25日, 佐賀大学
7. Toshimitsu TABE, A Study on the Geography Test: Comparative Analysis of Education Administration on Geography Education in Japan and the U.S.A., 2013年8月8日, 京都国際会議場
8. 田部俊充: 日本地理学会地理教育公開講座「アメリカ世界地誌 Q&A: エスニシティ・フードビジネス・グレートプレーンズ・デモクラシー」(国土館大学), コーディネーター, 2014.3.27.
9. 永田成文: 日本社会科教育学会春季研究集会「エネルギーと社会 - 社会科教育実践を考える - 」(早稲田大学), コメンテーター, 2013.5.18
10. 永田成文「Reforming Geography Education to Foster the Notion of Citizenship in Japan」IGU Kyoto Regional Conference GS175-4 Geography Education(4), Kyoto International Conference Center, Japan, 自由研究発表, 2013.8.7
11. 永田成文「エネルギーの持続可能性を考える小学校社会科授業」全国地理教育学会第7回大会(文京学院大学), 自由研究発表, 2013.11.23
12. 山根栄次・永田成文・石田智洋「電気の安定供給の重要性を実感できる中学年社会科の授業開発」全国社会科教育学会第62回全国研究大会, 2013.11.9, 山口大学
13. 寺本潔, 沖縄県の小学校で試みた津波防災マップづくりの実践, 日本生活科総合的学習教育学会, 2013年6月22日, 兵庫県立明石高等学校
14. 寺本潔, 津波防災をテーマとした児童によるハザードマップ作製の試み, 日本社会科教育学会, 2013年10月27日, 山形大学
15. 小坂千明・寺本潔 ESD(持続発展教育)の視点を取り入れた授業は従来の授業とどう違うのか 日本社会科教育学会 2013年10月26日発表 山形大学
16. Koji OHNISHI, Hiroshi MITSUHASHI, Geography education challenges in recent Japanese National

Curriculum debates: Geography education for mitigation of disaster in Japan, アメリカ地理学会, 2013年4月11日, ウェスティンホテルロサンゼルス

17. 大西宏治, 地図を活用した防災学習とまちづくり, 経済地理学会中部支部例会, 2013年4月27日, 名城大学

18. Koji OHNISHI, Learning disaster from the Ise Bay typhoon through map making activities, 2013年8月8日, 京都国際会議場

19. 大西宏治, 国際地理学連合京都大会における地理教育の取り組み, 2013年8月25日, 佐賀大学

20. Yuzuru UMETSU, Kotarou YAMAGATA and Takashi SHIMURA: Schools devastated by the Great East Japan Earthquake in Iwate, Miyagi, and Fukushima Prefectures: Their geography and the need for geography teaching resources support: IGU Kyoto regional conference (Poster Presentation), 2013年8月7日, Kyoto International Conference Center

21. 志村喬: イギリス地理教育界におけるケイパビリティアプローチ・アプローチ提唱の意味 - 知識と目標をめぐる議論の展開 - . 日本社会科教育学会第63回全国研究大会, 2013年10月27日: 山形大学

【図書】(計6件)

【平成26年度】

1. 草原和博・渡部竜也・永田成文他 19名 明治図書『「国境・国土・領土」教育の論争・論点 - 過去に学び, 世界に学び, 未来を拓く社会科授業の新提案 - 』, 2014, 197p(担当ページ pp.121-128)
2. 寺本潔・吉田和義編著 『伝え合う力が育つ社会科授業』教育出版 2015 135ページ
寺本潔編著 『教科力シリーズ 小学校社会』玉川大学出版部 2015 226ページ
3. Kiyoshi TERAMOTO Maps, Globes, Cognitive Space and Geography Education. 87-94 2015 Yoshiyasu Ida, Geography Education in Japan Springer 243p
4. 井田仁康・湯田ミノリ・志村喬・大西宏治・大島英幹と共編, 井田仁康ほか 23名と共著 Springer, Geography Education in Japan, 2015年(1月), 243ページ

【平成25年度】

5. 田部俊充「主要国の地理教育」『人文地理学事典』人文地理学会編, 2013.9.30, pp.624-625.

6. 田部俊充「環境教育の周辺領域 関連する諸科学 地理学」『よくわかる環境教育』水山光春編著, 2013.7.20, pp.124-125.

6 . 研究組織

(1)研究代表者

田部 俊充 (TABE, Toshimitu)
日本女子大学・人間社会学部・教授
研究者番号 : 20272875

(2)研究分担者

大西宏治 (OHNISHI, Koji)
富山大学・人文学部・准教授

研究者番号 : 10324443

志村喬 (DHIMURA, Takashi)

上越教育大学・学校教育研究科 (研究院)・教授・研究者番号 : 70345544

寺本潔 (YERAMOTO, Kiyoshi)

玉川大学・教育学部・教授

研究者番号 : 40167523

池俊介 (IKE, Shunsuke)

早稲田大学・教育・総合科学学術院・教授

研究者番号 : 30176078

永田成文 (NAGATA, Shigefumi)

三重大学・教育学部・教授

研究者番号 : 40378279